

研究課題名「胆道再建を伴う肝切除術後のドレーン管理の妥当性の検討」に関する情報公開

1. 研究の対象

2012年1月1日～2018年12月31日に消化器外科1で胆道再建を伴う肝切除術を受けられた方

2. 研究目的・方法・研究期間

消化器外科手術では手術時に予防的ドレーンを留置することが一般的でしたが、最近の研究では予防的ドレーン留置自体にも弊害があり、留置は不要とする報告が複数されています。肝切除術においても非留置もしくは早期抜去を推奨する報告がされていますが、これらの報告は全て胆道再建を伴わない肝切除に限った検討です。胆道再建を伴う肝切除術は未だに合併症率や術後死亡率も高く、予防的なドレーン留置が一般的に行われています。しかしながら、本術式におけるドレーン管理について検討した報告は過去になく、至適ドレーン管理法についてエビデンスは存在しません。本研究では当科で行っている胆道再建を伴う肝切除術後のドレーン管理の安全性、妥当性について後方視的に検討することが目的です。2012年1月1日から2018年12月31日までに当院消化器外科1で胆道再建を伴う肝切除術を受けた症例を対象とし、診療録から患者データを参照し、ドレーン管理法と術後合併症について統計学的解析を行い、検討します。研究期間は2022年12月31日までです。

研究責任者は株式会社ヤクルトの資金提供による寄付講座に所属するため、同社と利益相反関係にあります。同社は、本研究計画の立案、実施、データ管理、統計解析および結果の解釈には一切関与しないため、本研究は同社から独立して公正に実施されます。したがって同社のために有利な結果を導くことはなく、あなたの権利、利益が損なわれることもありません。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：年齢、性別、手術内容、術後経過、術後の採血結果、術後に撮影されたCT画像など

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内

で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としますので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

名古屋大学大学院 腫瘍外科学 〒466-8550 名古屋市昭和区鶴舞町 65

研究担当者・研究責任者：

名古屋大学大学院医学系研究科外科周術期管理学（ヤクルト）寄附講座 渡辺 伸元